

NPO法人 都市災害に備える技術者の会

幹事会 第5回 議事録

- 1 日 時：平成22年 8月 28日（土）12時00分～14時30分
- 2 場 所：NPO法人都市災害に備える技術者の会 大阪営業所
- 3 出席者：石川、伊藤、太田、片瀬、廣野、山田（以上6名、敬称略）
- 4 資料：(1)第5回幹事会 議事次第
- 5 議事要旨

(1) 現状報告

○第四回幹事会以降の動きや新たな報告について

○総会での幹事会に対する考え方を受けて

- ・ 7月24日開催のNPO総会において議論のあった企画委員長を含めた会議開催が、9月6日（月）に決定。
- ・ 理事長から企画委員長と連携を取りながら幹事会を運営すべきとの示唆。
- ・ 事務局長から幹事会は、今後、「試行」しながら進めて行きたいとの意向表明。

（これを受けて幹事各位の意見）

- ・ 技術士会との関係についてどのように考えるのか、また、組織としてどこに位置付けるのか？屋上屋は誤解である。
- ・ 理事長の意見に従い企画委員会の下に位置づけるのがスムーズだろうというのが総会時での会員のイメージと感じた。
- ・ 震災対策技術展について
建設部会主催、近畿支部共催となっている。NPOも共催している。企画などについてもっと参画してもいいのではないか。またパネルディスカッションで議論した内容を次回以降にフィードバックし議論をさらに深めることも必要ではないか。
また、ここで出された課題や問題をNPOとして、WGなどで議論すべきではないか。
- ・ WGの位置づけを明確にする必要がある
- ・ 1月と6月のシンポジウムの企画と実施と次回の企画提案が幹事会の主要な柱である。
- ・ 議事録を逐一知らせれば円滑に進むのではないか。情報の提供を確実のおこない幹事会の活動内容が「見えるように」すればいいのではないか。
- ・ 企画委員会はNPO設立以来開催していない。また、理事会は2～3回開いた記憶がある。そのような状態を鑑みると企画委員会の下に位置づけすると良くないと思う。）
- ・ 企画委員会の下に位置づけして、企画委員会は動くのだろうかと言う懸念がある。
- ・ 幹事会の役割には企画以外のこともあるので、企画委員会の下に位置づけするのは適切でない。また、企画委員長と相談しながら進めるとして、企画委員長は時間が取れるのだろうかと言うことも懸念される。
- ・ 幹事会と言う名称や位置づけに拘らなくてもいいのではないか。
- ・ 事務局長の言う「試行」でも良いが、規約は大筋で曲げてはいけない。
- ・ 建設部会役員会でWGの報告をすることで山田事務局長に活動の内容が伝わって円滑に行くのではないか。
- ・ 今後、会議の議事録や小活動をメーリングリストで送ってはどうか。
- ・ 事務局長は組織論からのアプローチを考え、幹事会は実質的な活動が出来るようにとの現実論から考えており、議論がかみあわないところがあるのではないか。
- ・ 今後の幹事会のあり方について幹事各位の意見を頭に入れて、9月6日に幹事長と、企画委員長の河田先生との協議に臨む。
「幹事会として企画委員長である河田先生のご指導を願ひ、大所高所からアドバイス

をいただきたい」と言うスタンスでお話しする。

その他の意見

- ・ニュースレターに会員向けに、実際の活動内容（実質的なもの）も示してはどうか。
- ・WG活動の内容を会員に見えるようにしたらどうか。
- ・会員に対する広報活動について検討する必要がある。
- ・ブログのように会員みんなが見られるようなシステムを考えてはどうか。

○災害経歴DB作成について

- ・災害直後の対応だけの話ではなく、発生後のアフターケアなども含めたDBを考える。
- ・往復葉書で名簿を作る。
- ・アンケートは別にする。
- ・

（２）今後の活動に向けての検討

○自治体とNPOのネットワーク形成について

・

（３）研修会等の内容検討

○リスクコミュニケーションに関する講演

- ・京大 矢守教授に依頼する。
- ・一般論だけでなく住民、NPO、技術者と言った立場からどのような視点、考え方があかなどを講演してもらいたい。

（４）その他

- ・防災白書に記載されている『新たな公』について紹介。